名瀬小だより
2月号

学校教育目標
自分や相手を大切にし、
考えて行動する名瀬っ子

令和6年1月31日
横浜市立名瀬小学校
校長　中嶋　孝宏

希望の轍（わだち）

副校長　太田　理絵

暖かな日差しのもと、2024年（令和6年）がスタートしましたが、元日に起こった能登半島地震では、多くの被害が出ています。一年で一番寒い時に、そして冬の寒さの厳しい地域での災害に、大変心を痛めています。被災された方々、ならびにご家族、ご親族の皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日でも早く安全な場所で安心して過ごせますように、お祈りいたします。

さて、今年度も残すところ2か月を切りました。6年生も卒業に向けて、色々な取組をしています。各クラスには『卒業まであと何日！』の日めくりカレンダーが掲示され、一日一日を大切に過ごしていることが分かります。

私は、この時期になると思い出すことがあります。以前勤務していた学校の6年生が、『轍（わだち）』という言葉を学年テーマに選んでいました。だから、6年生の学年だよりの題名も『轍（わだち）』でした。『轍（わだち）』には色々な意味がありますが、『「自分たちの歩んできた道・足跡」を残す』という意味があることから、6年生の担任は最上級生として、学校生活で歩んできた道・足跡を、在校生に残してほしいという思いがあったのではないかと思います。そしてその時の6年生は本当に『轍（わだち）』の意味の通り、1年間様々な活動に取り組み、在校生が憧れるような、そしてお手本となるような態度を見せてくれて、最高学年としての立派な足跡を残してくれました。そうして迎えた卒業式、私は6年生に『素敵な姿をたくさん在校生に見せてくれてありがとう』の感謝の意味も込めて、サザンオールスターズの『希望の轍』を、証書授与のBGMとしてピアノで演奏しました。

「自分のために」「仲間のために」「クラスのために」「学校のために」「地域のために」色々な活動をリーダーとして取り組んできた6年生。その姿を見てきた在校生は、6年生から受け継いだ『轍（わだち）』を強く強くしてくれるはずです。これから、バトンを受け継ぐ5年生を中心に、卒業をお祝いする様々な活動に取り組んでいきます。

来年度50周年を迎える本校の伝統『轍（わだち）』を一層強くしていくために、保護者の皆様や地域の皆様に、これからも子どもたちの豊かな学びを支えていただけると幸いです。